

第15号

す

する。



令和4年9月1日発行 〒358-0003 入間市豊岡1-15-1 埼玉県立豊岡高等学校 同窓会 会報編集委員会

推察申し上げます。 ては、ますますご清栄のこととご 同窓会会員の皆様におかれまし

また、 蔓延拡大により、 なっており胸が締め 壊され、 が求められています。 れ ウクライナ侵攻の惨状が映し出さ ています。学校、 テレビでは、 新型コロナウイル 幼い子供や市民が犠牲に 連日ロシアによる 日 常生 病院までが破 付けられます。 スの 活 0) 感染 自粛

向けて りました。 事 名の新会員を迎え、 このような状況の 今年度は、 が終了し、 の第 一歩となる年でありま 百周年という大きな 百五 新年度が始ま 中、 十周年事 三百十 業に 七

> ます。 ご報告申し上げます。 活 のご理解ご協力をお願 :動目標が決定いたしましたので さる六月の理事会で、 会員の皆様 い申し上げ 本年度 0

活動の 図る。 新 型コロ 情報発信 ナ禍における同窓会 の在 り方の検討

今後も継続的に母校支援を図るた 同窓会会費を執行しましたので、 め の発行、 にも、 女性の 視点から本会の在り方を考える。 百周年記念事業等で、記念誌、 組織の 財政基盤の確立を図る。 校門等の整備等に多額 副会長登用を図り、 財政基盤をしつかり確立 見直. しを図 女性

> るよう努めてまいる所存でありま 母校の発展と同窓会の充実が図 た会員の皆様のお力を借りなが これらの課題を、 役員 同、 ま れ

同窓会長

朗

す。 をお願い申し上げます。 掛けていただきたいと思ってい 会員の皆様には、 新たな段階を迎えているとはいえ、 りますようお願い申し上げます。 引き続きのご支援とご協力を賜 新型コロナウイルスへの 皆様のさらなるご支援ご協 日々の 健康に心 ?対応も、 ま



容を掘り下げながら、当時の学校の様子を紹

た貴重な史料から一種類を取り上げ、

その内

特集

尚

業学校卒業アル

和十年三月発行の

今回ご紹介する

は

アルバム表紙右下にある数字は当時-に用いられていた皇紀による年号

昭和十年三月

豊岡実業学校卒業アルバム

様々な史料が存在します。ここでは、そうし 長い歴史を持つ豊高には、その歩みを伝える きくは違 業生の写真などが収めら 動 れており、 の写真、 いません。 内容も今と大 教職員や各卒

0

応二

年、

藤

沢

村

校内風景や行事、

生徒活

和 で

三月に卒業する生徒向け

です。

現在と同じく

作成されたものです。

が 光』に歌われた『 交う蛍が 当時の学校は、 積まれた窓の外を飛び 革張りの表紙には、 の故事を思わせます。 ?描か れ、 『 蛍 雪 っ の 戦前 本 0)

また、 格があり、 卒業程度の男子に入学資 業学校」で、尋常小学校教育制度に基づいた「実 る点も特徴でした。 両 上方を教える 教育形態として、 0 商業の二科を分け 形式をとっ 五年制でした。 「農商

> X 豊

内

出

地

子とな 家の養 の粕谷

た後

玉

議 埼 0

ALbum

実設立の功労者 粕谷義三

史料紹介

だ男 活躍した政治家です。 初期にかけ、 す。こ 義三は、 性 ル 11 教職員 の写真 1, 0) 大礼服に身を包ん バ 人物 4 明治 江戸時代末期 0) は、始れ、治療 の写真より 表紙 中 -央政界 から昭 を 谷老 L 8

んだほ (現 ・ 活動にも参加しました。 財政経済学・ 日にアメリカへ留学して 0 橋本家に生まれ、 入間市 か、 同胞らと政治 藤 政治学を学 沢 地区 若き 市

扇町 屋村 現 入間

は、 豊岡実業学校設立の際に 認可を実現した功労者で き受け、 力した事でも知ら 高等学校) 設立 三尋常中学校 興に力を注ぎ、 義三は、 文部 昭 省 和二年 こへの陳 教育 現 埼 0) 分 れ 野 玉

一の設立 除情を引 ため · 川 ます。 県 0) 尽 越 第 振

大礼服姿の粕谷義三

員を皮 を果たし、

ます。 さから、 り、その議会運営の公平 めて全会一致で議長とな 長選挙の 議長に就任しました。 に同会副 に衆議院議員に初当選 その後、 切りに数 名議長とうたわ 際、 議 長、 明治三十一 議会史上 同十二 大正 度 0) 九年 当 年 初 議 年 選

れました。

ようと

いう ア

> きが 積を

高 顕

0

ル

バ 動 事 L

4

が

Oが 深 粕

後 き

彼 ŋ

0) ま した。

ح 真 徒 0

0)

銅

像

は

b

あ

達 前

を写した

は

こっちのとみ

人 ŋ を 安 東

(昭和11年の卒業アルバムより) 銅像と豊実生

ムに

は

あ

りませ

書

紹 7 銅

介

たア す。

ル

バ

様

11 像

ま

九

年 る

内に

義

地

設

置

さ 今回

n

b

n

前

年

0

年 λ

以 が、

降

0)

卒業ア

校

なく

粕谷

か

れて

のだとわ

昭

和

+

ル

バ

 Δ

は、

銅

に に

集

水まる

院議 しまし て、 に 総 年 を の第 果たしま か 選 実設立 로| 昭 か 挙 員 義三は、 たとし ŋ た。 + 和 O後、 取 五 七 年 口 す 7 そ と 五れ 悪 衆 が 数 0) 議 同 月 が 質 議 度 後 長 じ な風 た 四 悪 院 昭 0) b 職 昭 H 化 議 和 再 衆 を 和 13 邪 員 選 議 辞 Ŧī.

れし、 13 館 れ 7 0) 金

時 横 現 昭 L 属 体 13 在 和 ま 供 制 <u>V</u> b 出 五 13 下 入間 まし + 0 0) 0 年に ため 7 昭 た。 市 和 11 ます。 市民 再 撤 + 1建さ しか 九年 去さ 会

扁額はどこへ はどこへ 書 ? い

写真で 筆 T 11 谷 を 写 ル 義 取っ 真 バ が 4 7 まつ 13 あ は 記 ŋ ま わ b う一 る す 興 扁~ 額が彼 味 0

> 応じ 載 が 域 々 を多く か 、な所に たもの 残ります。 たた 0) 0 5 しは ている扁額 人 依 、残して 5号を竹巻 たくさん 々からの 頼 かもしれませ 彼 0 て書 現 アルバ 手による 堂と 在 求 ま 0 \$ 書 で め 言 b 4 学 7 を 13 かる よるも 違 「昭和 また、 と書

「恭倹勤敏」の扁額 とは、 元年) す。 で同 字が 和 和 数 和 た時代に相当する 合 三が亡くなっ 兀 0) わ 几 は、十干十二支のが読み取れます。 じ年 年と判 年と六十 せにより 粕 つで、 昭 の二回 谷義 0) 和己巳年」 が \emptyset で 断 三の生き 六十 あ 示され す できま 兀 た 年 か ŋ まし 5 0) 0)

爭

た 成 は

昭

振る 文字は 書 、う意味 舞 0) み うけんきん 記 番 右 さ 熱心に 左には の言 か 慎 7 「葉です。 Q_{k} 2 働 お 竹 Š 深 \mathcal{L} 堂 いう言 n

7

る

勤

敏

لح

左から二行目に ぐってきま 義三の手に という文 かります。 年 b, 0) 己巳 -周期 る 組 年 Z 間 ます。 事を目 想を軽 主義的 出され、 恐れ、 批 デモクラシー 名で大正 によって盛り上 大震災後の国 なった民衆運 国 詔 判 た当 書 国 民 [民精 たものです。 的 々 精 自 時 としてい 国に忠孝を 0) 0) 神 の政 中に 詔 0 由 神 1 作りまれる。一年に発 内情 大正 強 b 主 動 期 書 に活 は、 が、 化 0) 義 府 が b 勢不 を 的 K る 天皇 登 大正 ょ 事 さ 個 関

とし に、 0 重 か らは 精 要視される存 教 て、 玉 戦 神 育勅 [家主義 排 前 的 拠り所 除 戦 0) 語 され 教育に 後 0 八となっ 学校 などと共 軍 7 在 1 でし とし 国 お ました。 尽く ま 教 図 な思 主 11 ず。 育 た た る 義 7 7

写 ムに 真は、 か 倹 は 勤 戦 度 敏 後以 々登場 前 0) 0 卒 -業 ア 0 扁 ま 所 ル 0

扁

は、

晩

す。

は 7

昭

は

昭

ところで、

扁 わ 年

に

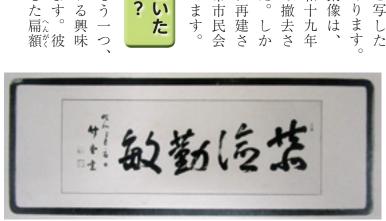
たも

のと

か 0

ŋ

ま





記念樹の写真(左が竹田宮、右が朝香宮の植樹)

月、

中

-等 学

れが

は

昭

和

七

年

あ

ŋ と

ま

ょす。

13

11

う

節

輝き台なる

は、農産のでは、

み

Ø

る て、

永

久

宮を内 校 た 実 鳩なを 監 連 八業学 彦まれ 歌 た 合 0) 詞 事 た 教 たりのでは、 を 練 演 記 13 習

族 の 来校記念 樹

0

陸

軍

で

あ

か校

内が不

で

保 明

る

は 管

学 さ す。

校 れ

13

たも

な 係 1 額

か が 0 学

学校に 中に 要 ま 木 O舎 ず。 な記 0) 写 P T 写 混 真 正 ル とっ 念 真 じ b バ 樹 が つ n あ な 4 でし て、 て、 5 掲 n) 0) 載さ は ま 中 とて 13 す **,**校 は、 当 本 n その b 時 . О 7 施 若 設 校 11 重 0

な部

て、

終

わ 有 あ

か L

内 0 者 た が

容

可 以

能 降

推

測 れ 慮 λ

さ 7 L が O関 7 扁

ます。 功労者

13 分 n 7

失 を ま

わ 配 せ

まっ

た 戦 的 は 所

実

業学 性も

校設立

で

あ

谷

義

だけ

現 る

も学校

残 書

っ

7

0 在 粕

は

少

し

残 13 0) 0) れ L

念です。

歌 存

年

0)

空澄

8

宮

校うの

詞 豊 在 高 は ま 0) す。 校 歌 時 その は Ĺ E 七 番まで 昭 香 和 0) 七

真 代 変 で ح 残 樹 と で K は た 近った 八です す。 共に であ す 0) 際 を感じさせる貴重 な名誉とされ 掲 を 衛ぇ朝 0 植樹し が、 記念樹を写したも 7 載されて 両 師 来校 宮それぞ 詳 宮 Ŕ 13 0 寸 両宮の来校が大評細な位置は不明 、ます。 た。竹に 天 したとの 演 田だのなり 11 習 る写真は そ T 7 n が 0 記 恒温陸 ĺ が 記 1 0 行 前 た 時 徳貴軍王が軍 な写 年 バ 録 際 わ L が 念 13 n

楽 彦 な 同 5 7 朝 なん 小北足立 部 余談で お 王 コ n 霞 その 念樹 b, は、 由 1 コ 一来と で 0 現 ス 後、 す 名 1 一郡内に 所 名誉総裁 同 在 ス 東 信俱楽部 付け 樹 な 0 在 が 京 種 朝 朝 地 は、 ゴ 建 朝 7 霞 霞 5 設 ル 町 \mathcal{O} n が を 香 彼に フ ま 名 名 ま 埼 務 宮 0 倶 地 は た 玉 8 鳩

たも

とさ

れ、 えら

百

年 0

0)

木

る

事

は 以

見 上

た 目

b

間

61

あ

n

す 違

る

n

た際

13

植

和 せ 5 あ 齢

卒

T

ら、 高 れ わ 今 13 ま る n P ま 0 0 0 現 せ ところ 0) 校 7 校 せ 生 段度で余さ しま かも 在も 6 庭 育 が、 \mathcal{O} 状 つ 拡 戦 L 人 良 況 れませ 生を送 b 知 た 張 後 < 13 n L 0) OOわ 0 ず、 かし か 中 校 か 13 · で 失 ん。 b 舎 0 0 7 豊 7 た L 7 は

どこにあったのか

業学 ح 高 は 前 ス 木と言うと、 る方 \mathcal{O} な 0 13 ノキを思 場 校 木 あ 高 11 でし が多 は、 所 が る K あ K 現 巨 ょう る古 建 豊 大 在 11 11 設 尚 0) 浮 な 食 O豊 か で 堂 実 13

樹 で n か

昭和10年の校舎 矢印で示す木がクスノキか?

中であ 設立当 があ れたと考えら で 最 てこの木と断 初は が 0) 可 ところが、 Δ が、 る場 そうな気が あ 能 0) 性が高 違う場所にあ ったため、 初 りませ 写 後に植え替え 所 真にも は、 グ / ラウ ん。 れ 定 確 ます。 と思 できる 実 信 写 じます。 恐ら 業学 ン を ŋ 現 0 卜 在 持 わ 込 校 写 木 n O

か?

部活動訪問 (第13回)

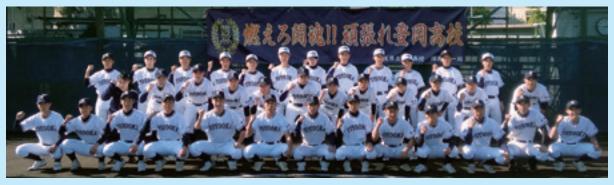
球

3年生部員 髙橋 大翔

高校野球の一年は夏に始まり夏に終わり ます。新チームが発足する7月から、新人 戦、秋季大会、春季大会を乗り越えて、夏 の甲子園に繋がる夏季大会と、計4回の公 式戦があります。私たちは甲子園出場を目 標に日々活動しています。時に苦しいこと や辛いこともありますが、仲間がいるから こそ乗り越えることができます。部活面だ けでなく、学業の面でも目標を持ち、少な

い勉強時間を大切にし、両立に励む部員も います。

令和3年度豊岡高校野球部は新人戦西部 地区ベスト8で秋シード権獲得、秋季大会 県大会出場、入間市が独自に開催している 市内大会では初優勝を収めました。その後 も順調に冬のオフの期間を過ごす事ができ ると期待されましたが、新型コロナウイル ス感染拡大の影響により部活動の制限が強 いられ、思うように全体練習を行うことが できませんでした。そのような状況下でも、 私たちは個々の課題を克服するべく自主練 習を行ってきました。全ては人生でたった 一度きりの高校野球をより良い物にするた めです。集大成である夏季大会で最高の結 果を残せるよう、部員一同頑張ります。そ して、一日でも早く元の生活に戻り、今ま で通りの練習ができる日々が訪れることを 願っています。



して 撮れ舎 ス左大写れに で T て植本面校 る立右校る よう 影 増 す 直 側 て掲ルおえのに舎当木 2 舎の 側 るをい載がりらればこの時の さ 丰 道 Z 昭 築の が が (7 正が 木は、たれまり、 路るれ和 校わと と拡るさム れが二正のす 針 舎か同 葉

たような木が た 三十 に 航 近 i 元の空 確 年 そ 代と後でに初れて でき 場 真 で 頭 みの 所 校 似よ 探に ら

は

層

重

伝える-れ 合 だけ だ豊 致 は 丰 時わ高 で 今史史代かの歴 ます。 きません が 0) \mathcal{O} 情 あ 場 学校と 報 0 は る 所 調 貴 で L は 位 の事は、 で 断 査 重 か 置 一や深 様子 L な b 定 現 多く まだ 存 ほ 在 在 ぼ ク

。 つ

達

す

す。

り じ

ま 広

す。 葉 右

樹 側

で が

あ

樹、



昭和10年の校舎 矢印で示す木がクスノキか?

たり、

衣

替え前

0)

迷ったらとりあえずやってみてください

が豊高

の初代女性

生

訳でもありませんでした。 性だから叩かれるという だまだ「リー 徒会長になったのは でもありません ほど前のことです。 何 の時代でしたが、 がしたかったわ ダー は 男 女 ま 世

うにとらえていた私たち た事でした。 手を挙げ で出馬を取りやめ、 候補 きっかけは生徒会長 していた方が事情 ない状態となっ 他 人事のよ 誰も 13

問題を突きつけられてし なくなるということは自 能力を失うことになる 心がざわつきました。 生徒会の存続 生徒会が 豊高 うで 規 ると、豊高を 則 刀を に縛 す。 は 封 られ 建的 け 振 れど、 ŋ 回

まったのです。

突然、

冶

私は、 L した。 そし ギリにそっと手を挙げ しました。 自 女性生徒会長となり 分を許せないと思い れ ない て、 信任投票により 時に 何 締め切りギリ かを失うか 何もしな ま 初 た 出

かけ では 会長という立場に立 b 自分にも 卒業生の寄稿を拝読す なかったはずでしたが 何 ない がし が生まれ始めました。 か?」との た 何かできる たかった 「自由な校 わ 一つと 問 け 0) で 方 自

指 風」と表現されているよ で校歌を覚えさせら てい で息苦し 「す先輩 まし 当 時 0)

> 業は ただ、

連

帰 あ

る

ほ 日

どの残

何 指 か詰問される姿もあ 日 た。 故 ヤ に上 の先生 目立つ行為をするの ツで歩く生 着を脱い が 呼び止め、 一徒を生活 で 白 ワイ

快く私の提案を受け入れ 0 改 0 5 会則改正作業へと突入す ンバーだったのですが、 61 てくれ、 以正をし 仲間に と思いつき、「会則 ない なく集まってくれ 生徒会存続のために ける校風を変えてみた 規則で学生を縛 私たち執行部 提案しました。 たい」と執 行部 は 0

ることになります。 た管理をなくし、健全な ける環境を作ること。 治で学生生活を送 目標は古く凝り固まっ 宅が8時9時に まりに膨大でした。 会則を作り直 業状態で、 す作 って 何事にもくじけず頑張れ る根性を養ってもらえた 後の人生の糧となり、

13

思 出

友 山 宏

経

豊高の思

出

私は、

恐怖と訳

0

分

真っ先に浮かぶのは り部活です。 豊 高 0) 思 11 出 とし やは 7

な

校生活で得た経験が、そ での苦しかった練習や学 わいましたが、その部活 績を残せず、 土日も休むことなく練習 卓球部に入部しました。 うに思い起こされます。 たことが、つい昨 明け暮れ、 しかし、思うような成 朝練と放課後、 私は、入学して直ぐに ばりながら頑張 挫折感を味 仲間と歯を そして H のよ

本人は右から二人目

の経験が今の自 わっていますが、 気がしています。 っています。 った今でも、 卒業して五十 昭48年高卒 卓 分の 年 豊 球 近 高 に



た

0)

で

当時こ 則違 日 か在 屋さんに寄りまし のように帰 0 のように た時代、 反 です。 0 行為は コンビ りに 私 たち 立 ニも ラー 派 た。 な校 は 毎 な

ました。 改正 メンバ 先生。 + をすり 役の小林先生と職員会議 風穴を開 ポ 顧問 生 1 1 は穏や、 良き 徒会は古い会則 トしてくれ 抜けるべく知力で 自 け に恵まれ、 ることが 由な校風 顧 問 かなまとめ と誠 た星 一年 実な へ の 出 来 を 野 0)

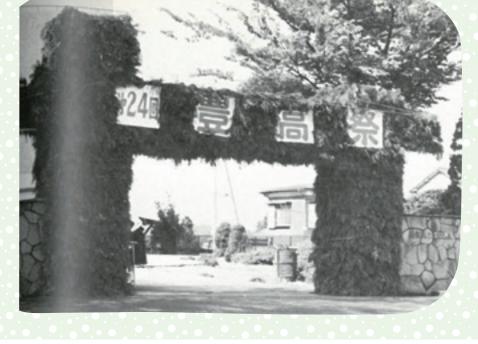
ブラッ ては たがる?」 できるだろう?なぜ 0 が 効 L \$ は 員室に クリ 可 わ っと女らし お前は女 生 ば た生徒 能 け 徒 7 L と指 では Vi 性 ストに載 指 ば。 5 を感じたら 呼 導 会運営 なの の先 n な 導される び な 61 11 出 心配 だか 「され せら れ 暴 か 0) 生 で た n が に

> です。 へと変 は あ 正 ったようです そ 真 0) わ 正 後、 0 銘 ていっ の自 揺 ŋ 由 な校 返 たよう 豊 L 高 風 b

指 以 針は 後半 世 「迷ったらとり 紀、 私 0 人生

神 h な 13 あ えず ,ました。 こうとも考えています 爽 敗 で、 一高 快 0 \$ やつ 数々にも、 時代に培われ 感があります。 う少し頑張 呆れるほ てみる」 不 たって精 الح 思 議

昭49高卒



吹奏楽部

浜野

好市

寸

してきたなと思

つ

7

方もこんな状態でよく入

には

大変な思

先



1

特訓

b

何

度も何度も

遅

たに違いない。

でも

思い めての夏休みは 器演奏が出来たらなとの ルに向け合宿が始まり はサックスに決まる。 単に音楽が好きで何 状態での入団、 私が入団したのは、 から。 音符も読 コンクー パ めな か楽 | |-只 初 合

特 OBや先輩に囲まれ 音 符 が読 めな 7

泊まりでした。

宿場は学校内の教室で寝

と合 る程 き、 11 経 奏 0 うちに音符を読 より位置で自 リズ 0 出 っても忘れら 0) [です。 長し音(自 曲 の上達?その後 楽 一分でも ムで が L 出 さ 来 0 練習して は 然に指 重 上 びっく 五. れ なり むと が 十 る。 な 数 は ŋ 61 61 で が 61 年 す 動 う

昭 45 年 高 卒



E P 名簿 の 協 力 お 願

Н

らっ 代表の方のお名前がわかりませ 昭和 しゃ 44 年以 いましたら、 前及び平成16年から平成24年までのクラ ぜひ情報をお寄せ下さい ん。 ご存知の方が

多く 野志朗 岡高校 式典に たくさんのご祝辞 業を推進、 委員長様をはじめ各種事 だいておりますこと、 ますますご Oあ いましたみなさま、 存じます。 しまし 感謝 お言 ŋ 同 がとうございました。 昨 のみなさまから母 窓会のみなさまには 際し、 葉を K た創立百周年記念 年 申 かいご支援をい 同窓会長様はじ 寄 10月2日に挙行 し上げます。 ご協力くださ 健勝 せら いただき、 日ごろから村 木下博実行 れる期 のことと で激 誠に ま 厚 励 た 校 8 され 蔓延防 名は、 昭 願 b b 規 会 か 0 模縮 れ、 和 1 56

校長 内 田 正 俊

まのご指導とご支援をお 卒業生たちです。 ただいた高校74 不自由な生活を余儀なく 行も代替案まで計画した 折れずに努力してきた のの中止となるなど、 やコンクー 部分で緊急事 申し ました。 高校生活 小に加え、 止 上げます。 事や部活 重点措置 会員に そんな中で ル 0 態宣言や の 加えて 口 みなさ 修学旅 中止や ...動 下に置 かなり 3 1 7 大

年3月本 月 また、 平 成 -校書道 この3月には、 1 4 9 $\widehat{1}$ 8 !科教諭と 9 9 2 年 4

まる思

いでおります。

大きさを思い身

の引き

慶賀に存じます。 5 芸術院賞・ 窪 価されたものです。 入りました。 陸游 れるというニュ て指導に当たられた牛 (梧十) 詩 の書が高く評 恩賜賞を受け 先生が日本 日展出品作 ーースが 誠に

たいと念じております。 幸せを受け止めてもらい ともに豊高との縁を喜び 共にした仲間や先輩方と 業後には青春の3年間を を育ててまいります。 将来大きく羽ばたく人物 創りあげるべく進化 となって、 とともにスタートしまし るとともに、 0 援ご鞭撻のほどお 誉れ」にふさわし |を迎え945名の生徒 ご発展を祈念申し上げ 豊岡高校同窓会の一 てまいります。 母校は319名の新 教職員と生徒が 一げます。 新しい伝統を 母校 出藍 発展 体 1, 卒

を訪れ、 × 4 0 0 m R に出場した佐藤拳太郎選手が

1階玄関を入ったガラス棚に飾 て大会出場の記念皿を寄贈しました。 校長先生および同窓会にご支援のお礼とし ってあります。 なお記念皿 学



佐藤拳太郎選手(平成25年卒)

会に入会させておとうございました、平尾はました、平尾は 生は今の様とは、 します。 き修とは分ルス 同 う Ŋ 機 スの 返り 会を 時 間 に、 0 高 あ だ 0) で で で に んでした。しな で はな中でも、生生 の 来る最大限で の 来る最大限で の で に がな中でも、生生 ŋ 影 0 ま 頂 度 平尾結愛でかった。 *、*ます。 今日こ 響で心 ずと、 新型コ たなと感じると き、 は しく 尚 取大の行事三年次生 残りな部 ま 口 あ年 0) 頂 高 いっとい ナウイ ような きあ で高 間 お 校 がで な行事 願い 徒 か を 同

新同窓会員



思が校りせさいないなる。 < ナけ ´ます お ゥ 5 生 ます。 支援 なら、 願 益 で 校 イ 徒 れ がし まし 々 生 ル 生に一度とこれで 0) 4う。最後にな有意義に過ご 発展を微・ てい 今後 どうぞよろ きた の最 新 吸後にな 豊岡高 ること 生 型 労力な か Oな

進ぬ指導部より

令和4年度入試の結果をお知らせします。

今年度は2回目の大学入学共通テストで平均点の低下や、コロナ禍で分散登校など もあり、生徒は不安を抱えながらの受験でしたが、よく健闘したと思います。国公立 大学では現役生の中から5名の合格者がでました。

令和4年度入試合格者数(過年度卒含む)				
四年制大学	短期大学	専門学校 (看護医療系)	専門学校 (看護医療系除く)	就職・公務員
362	10	16	48	5

~主な合格先~

【四年制大学】(延べ人数)

埼玉大学(4名)、青森公立大学(1名)、すべて現役生の合格です。

早慶上理(早稲田、慶應、上智、東京理科) …計1名合格 GMARCH(学習院、明治、青山、立教、中央、法政) …計12名 日東駒専(日本、東洋、駒澤、専修) …計36名 四工大(東京都市、東京電機、芝浦工業、工学院) …計7名 その他多数合格 【就職・公務員】

陸上自衛隊、海上自衛隊、西武鉄道、湯沢グランドホテル …他

(3) 特別会計の部 (いるま野農協 東金子支店 普通預金) 収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越) 2.628.722円 - 925.710円 = 1.703.012円

(収入) (単位:円)

科目	金 額	摘 要
1 繰入金	1,000,000	一般会計の部繰出金より
2 雑 入	15	預金利子
3 繰越金	1,628,707	前年度からの繰越
合 計	2,628,722	

(支出) (単位:円)

科目	金 額	摘 要
1 会議費	0	
2 事務費	925,710	会報14号印刷代、送料等
3 予備費	0	
合 計	925,710	

上記のとおり令和3年度決算報告をいたします。 令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗 上記決算を監査した結果、正確にして相違ないもの と認めます。

令和4年5月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安 埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

3 令和4年度事業計画

- (1) 会議等
 - ○常任理事会 令和4年6月27日 豊岡高等学校 視聴覚室
- (2) 同窓会報の発行

第15号 令和 4 年 9 月発行予定

- (3) 文化祭参加 令和4年9月3日、4日
- (4) 同窓会入会式説明 令和5年3月10日予定
- (5) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈
- (6) 第75回卒業式出席 令和5年3月11日予定
- (7) 賛助金の受付

·金額:一口 1,000円

・方法:ゆうちょ銀行に開設した口座に振込 名義「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」

(8) その他

4 令和4年度予算

(1) 一般会計の部(普通預金)

(収入)

(単位:円)

科 目	予算額	摘 要
1 会 費	3,110,000	10,000円×311人(4年度卒業生)
2 賛助金	100,000	1,000円×100口
3 繰入金	0	一般会計の部(定期預金)から繰入
4 雑 入	867	預金利子
5 繰越金	7,568,133	前年度から繰越
合 計	10,779,000	

(支出)

(単位:円)

科 目	予算額	摘 要
1 会議費	250,000	常任理事会経費
2 慶弔費	100,000	慶弔費
3 事務費	500,000	事務局使用料、HP管理料等
4 卒業生費	150,000	卒業証書ケース代
5 激励費	800,000	関東・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	50,000	講演講師謝礼
7 積立金	5,000,000	定期預金へ
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	300,000	同窓会報特別会計の部へ繰出
11 予備費	3,629,000	
合 計	10,779,000	

上記のとおり提案いたします。

令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

(2) 一般会計の部 (定額預金)

(収入)

(単位:円)

科 目	予算額	摘	要
1 繰越金	0		
2 繰入金	5,000,000	一般会計より	
3 預金利子	1,000		
合 計	5,001,000		

(支出)

(単位:円)

科 目	金 額	摘要
1 繰出金	0	
2 定期預金	5,001,000	
合 計	5,001,000	

上記のとおり提案いたします。

令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

(3) 特別会計の部

(収入)

(単位:円)

科 目	予算額	摘 要
1 繰入金	300,000	一般会計の部繰出金より
2 雑 入	988	預金利子
3 繰越金	1,703,012	前年度からの繰越
合 計	2,004,000	

(支出)

(単位:円)

科目	金 額	摘 要
1 会議費	100,000	編集委員会会議費
2 事務費	1,500,000	会報・封筒印刷・送料
3 予備費	404,000	
合 計	2,004,000	

上記のとおり提案いたします。

令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

5 その他

激励費内規作成

令和4年度 常任理事会報告

過ぐる令和4年6月27日、「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」令和4年度常任理事会を豊岡高等学校視聴覚室で開催、無事終了いたしましたのでその概要をお伝えします。

議事

1 副会長及び常任理事の承認について

副会長 小林 守利 昭和54年卒 常任理事 廣瀬 いづみ 昭和59年卒 常任理事 小川 雄作 平成11年卒

2 令和3年度 事業報告

(1) 会議等

○常任理事会 令和3年6月22日

- (2) 同窓会報の発行第14号及び号外 令和3年11月1日発行
- (3) 文化祭参加 なし (コロナウイルス感染症の影響 により文化祭が生徒のみ参加となったため)
- (4) 百周年記念式典参加

令和3年10月2日 豊岡高等学校体育館 なお、創立百周年記念事業実行委員会は令和3年 10月25日第9回実行委員会をもって終了

- (5) 同窓会入会式説明 令和4年3月11日
- (6) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈
- (7) 第74回卒業式 令和4年3月12日
- (8) 関東・全国大会出場選手等の激励
 - ・関東高等学校アーチェリー大会 5名激励
 - · 関東高等学校陸上競技大会 11名激励
 - ·全国高等学校総合文化祭 7名激励 (軽音楽部·写真部)
 - ・国体関東ブロックアーチェリー競技会 2名激励
 - ·全国高等学校総合体育大会陸上大会 2名激励
 - · 関東陸上競技選手権大会 8名激励
 - ・全国高等学校軽音楽コンテスト 6名激励
 - ・東京オリンピック4×400m リレー 佐藤 拳太郎さんへの激励
 - ・バトントワーリング関東大会 10名激励
 - · U18陸上競技大会 2名激励
 - · 関東高等学校選抜新人陸上競技大会 4名激励
 - ・関東高等学校アーチェリー選抜大会 2名激励
 - · 関東地区高等学校写真展 1名激励
 - ・全国高等学校アーチェリー選抜大会 2名激励
- (9) 同窓会会報賛助金の受付

2 令和3年度 決算報告及び監査報告

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

(1) 一般会計の部 (飯能信用金庫 入間支店 普通預金)収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)9,508,632円 - 1,940,499円 = 7,568,133円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会 費	3,169,230	10,000円×317人(3.年度卒業生)-振込手数料
2 賛助金	186,000	1,000円×186口
3 繰入金	0	
4 雑 入	1,788,691	預金利子・創立百周年会計残金の返 金・記念誌会計
5 繰越金	4,364,711	前年度から繰越
合 計	9,508,632	

(支出) (単位:円)

(ХШ)		(卡匹・11)
科 目	金 額	摘 要
1 会議費	0	
2 慶弔費	26,500	役員慶弔費
3 事務費	123,221	HP 更新作業費、はがき、切手代等
4 卒業生費	120,778	卒業証書ケース代
5 激励費	670,000	関東大会・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	0	
7 積立金	0	
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	1,000,000	同窓会特別会計の部へ繰出
11 予備費	0	
合 計	1,940,499	

上記のとおり令和3年度決算報告をいたします。

令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗 上記決算を監査した結果、正確にして相違ないもの と認めます。

令和4年5月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安 埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

(2) 一般会計の部 (定期預金)

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越) 0円 - 0円 = 0円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰越金	0	
2 預金利子	0	
合 計	0	

(支出) (単位:円)

(~11)					(112.11				
科	目	金	額	摘	要				
繰出会	定		0						
合		0							

上記のとおり令和3年度決算報告をいたします。

令和4年6月27日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗 上記決算を監査した結果、正確にして相違ないもの と認めます。

令和4年5月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安 埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇 TEL ○四-二九六二-五二一六

F A X

〇四一二九六〇一

一〇五三

埼玉県立豊岡高等学校

同窓会報編集委員会

メールアドレ ームページ

http://toyokodoso.org f625216@pref.saitama.lg.jp 発行所

〒三五八-000三

埼玉県入間市豊岡一-一五

事務局だより

だいぶいきわたり落ち着 できない状況です。 たとはいえ、まだまだ油断 コ ロナもワクチン接種

ることと思います。ご協力 員長を務められた前同窓会 を無事終えました。 ありがとうございました。 役員の皆様も安堵されてい 会長の木下博氏をはじめ、 ていた創立百周年記念式典 ただいた各方面の皆様、 ロナ禍で一年延期され 実行委

~さらなる100年に向け

校舎壁面に掲示された横断幕

待ちしております。

令和3年度は、 (助金の お 延べ77人の

ます。 うございました。 を頂きました。ご協力ありがと から総額十八万六千円のご厚志 めに有意義に使わせていただき 会報発行の

小川

雄作氏

昭

59

高卒

平

11

高卒

廣瀬

1

・づみ氏

新

理事をご紹介します

クスノキはどこにあったか

同窓会報編集委員会宛投稿をお ついてもご存知の方、 知の方、ぜひ、ご一報下さい。 わる思い出話がありましたら、 ても在学中のこの木や額にまつ しゃいましたらお知らせ下さ いて、その後のいきさつをご存 行方やいきさつをご存知なく 特集4頁に記した記念樹につ 粕谷義三の扁額の行方に いらっ

発行人 村野志朗 編集委員 足立 宏·木口勝已 里田 越子·竹永恵晴 三田中孝幸·野口光 橋田 山田美和·小川雄作

計 報

令和3年度卒業 同窓会クラス代表																	
1組	中	Щ	誠	矢	Ш	﨑		瞭	5組	長	出	柚	樹	武	藤	功	真
2組	黒	米	浩	太朗	中	Щ	勇	希	6組	須	長	勇	人	鈴	木	花	菜
3組	木	舩	皓	平	岸	村	洸	琉	7組	大利		理	桜	Щ	内	颯	斗
4組	後	藤	柊	渡	鈴	木		隼	8組	齋	藤	±	真	清	水		翼

福をお祈り申し上げます。 逝去されました。謹んでご冥 (昭34高卒)が六月十三日ご 本会常任理事·石川秀夫氏

> りにならない中、 でに二百年を見据えて ある。 さらに十か月遡る。 す。そして、私は何か られました。 の私の時代の面影を残 と思う。 状況下で物事を達成す を進めてきた。 で様々なことが思い通 歩んでいる。 さに光陰矢のごとしで 日々です。 ふと思いをめぐらす 成し遂げられたかと、 しながらも美しく整え 校門付近は、 ることも喜び ている。百年誌完成は ▼百周年記念式典から くのは欅の幹の太さで 年近くが経とうとし 百周年で整備され 私達の豊高はす コロナ禍 何より驚 半世紀前 の瞬間だ 困難な こう 編集